

平成 28 年度児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲームの  
利用状況等に関する調査結果について

- 1 調査目的 児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲーム機等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- 2 調査対象 (1) 小学校：中野区立小学校 25 校 第 4 学年・第 5 学年・第 6 学年  
(2) 中学校：中野区立中学校 11 校 第 1 学年・第 2 学年・第 3 学年
- 3 調査方法 質問紙法による（無記名式）
- 4 実施時期 平成 28 年 11 月

平成28年度児童・生徒の携帯電話、スマートフォン、通信機能付き携帯ゲームの  
利用状況等に関する調査結果

平成28年11月実施

中野区教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査目的

児童・生徒の携帯電話・スマートフォン・通信機能付携帯ゲーム機等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。

### 2 調査対象

(1) 小学校：中野区立小学校 25校 第4学年・第5学年・第6学年

(2) 中学校：中野区立中学校 11校 第1学年・第2学年・第3学年

※ ただし、特別支援学級の児童・生徒については、児童・生徒の個々の状況を勘案し、校長が実施の必要性の有無を判断する。実施した場合は、該当学年の集計に含める。

### 3 調査方法

質問紙法による（無記名式）

### 4 調査の実施時期等

(1) 実施時期 平成28年11月

(2) 実施時の対象者数・回答者数・回答率

	小学校	第4学年	第5学年	第6学年	中学校	第1学年	第2学年	第3学年
対象者(人)	4252	1441	1381	1430	3110	1007	1018	1085
回答者(人)	4153	1405	1351	1397	2929	952	944	1033
回答率(%)	97.6	97.5	97.8	97.6	94.1	94.5	92.7	95.2

## II 調査結果

問1 自分専用の携帯電話・スマートフォン・通信機能付の携帯ゲームを持っていますか？

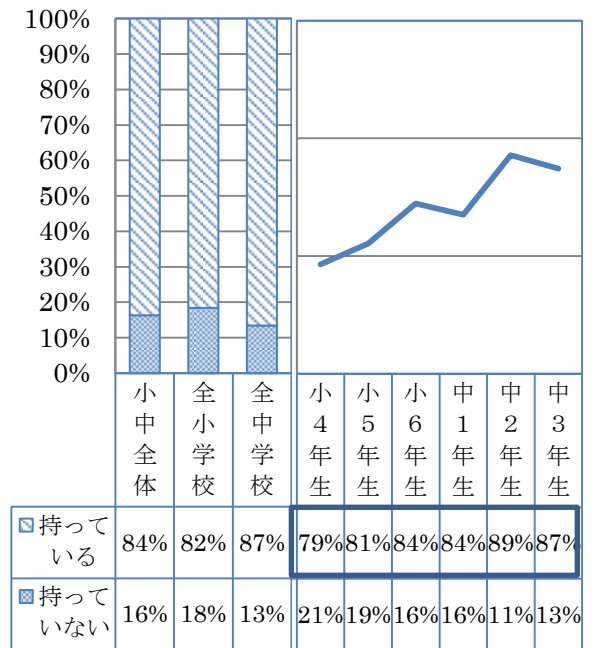
### 【分析】

自分専用の携帯電話等の所持率は、第4学年以外の学年で8割を超えている。また、昨年度に比べて所持率は、小学校では1ポイント、中学校では4ポイントと微増している。

学年別で見ると、小学校では第6学年、中学校では第2学年が一番高い。また、中学校は、第1学年では7ポイント、第2学年では4ポイント、第3学年では2ポイントと昨年度に比べ全学年で所持率が増加している。

携帯電話等所持率は、スマートフォンの所持率の増加に伴い（問1-3参照）どの学年においても年を追うごとに増加傾向にある。

インターネット等は瞬時に様々な情報を得られる良い面と、長時間利用による生活の乱れやトラブルに巻き込まれるといった悪い面があることを理解させ、より適切に利用できるように指導する必要がある。



問1-2 「持っている」と回答した人に聞きます。  
フィルタリングやペアレンタルロックはかけられていますか？

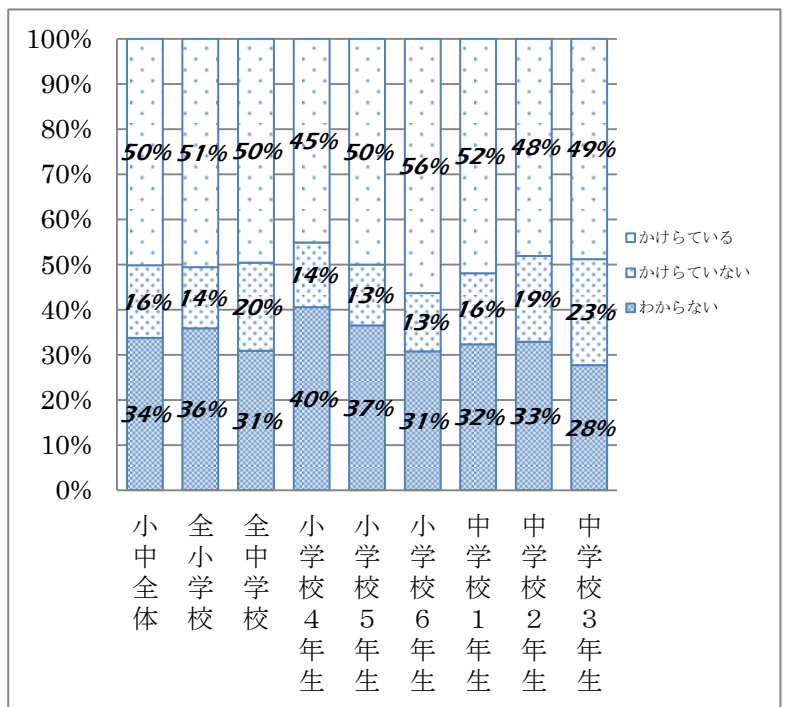
### 【分析】

小中学生とも「フィルタリング」や「ペアレンタルロック」がかけられている回答している割合が約50%であった。小学校においては、昨年度より6ポイント増加し、特に第4学年においては、10ポイントの増加が見られた。

「かけられていない」と回答している児童・生徒の割合は、昨年度より小学校では、3ポイント減少した。中学校においては、中学校第2学年において1ポイント増加した以外、大きな変化はなかった。

「わからない」と回答している児童・生徒の割合は、小学校で34%、中学校で31%であり小学校においては、昨年度より6ポイント減少している。

小学校においては、フィルタリング等のロックがかけられるようになったものの、いまだ3割以上の児童・生徒がかけられていなかったり、ロックがかけられていること自体、分からなかったりしている現状である。今後も家庭は、フィルタリングの意味や必要性について児童・生徒と話し合い、学校は、家庭において確実にフィルタリングがかけられるように保護者への意識啓発をし、児童・生徒へは授業等で携帯電話等の使用の際の注意点などを指導する必要がある。



問1-3 「持っている」と回答した人に聞きます。持っている機器の種類は何ですか。

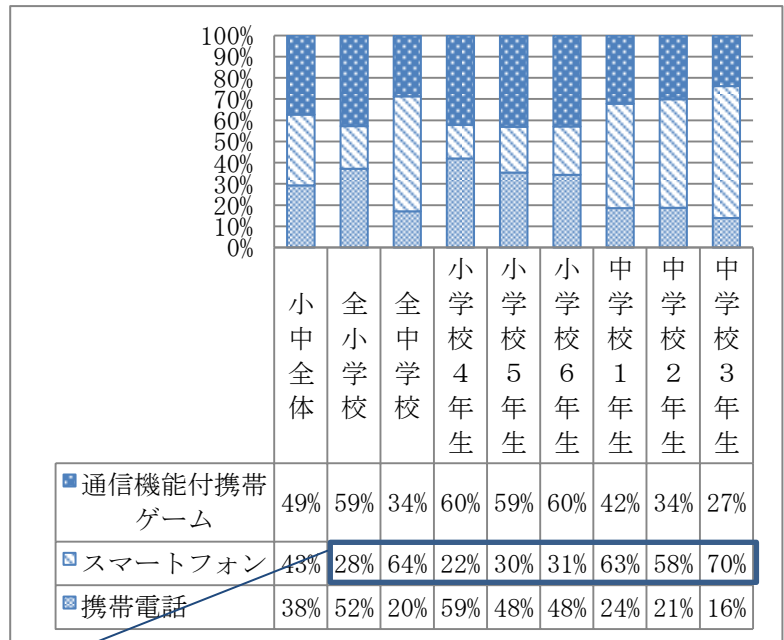
【分析】（複数回答可）

機器の割合で見ると、小学生は、どの学年においても「通信機能付携帯電話ゲーム」の所持率が最も多く、中学生になると、「スマートフォン」が最も多い。

「スマートフォン」においては、小学生、中学生ともに所持率が増加している。

このことにより、SNSなどの利用がさらに増加し、トラブルに発展するケースがあると考えられる。

スマートフォン所持の低年齢化は、今後も進んでいくと考えられる。このことから、小学校低学年からの発達段階に応じた情報モラル教育や道徳教育の一層の充実を図る必要がある。



<平成27年度調査抜粋（スマートフォン所持率）>

小全	中全	小4	小5	小6	中1	中2	中3
16%	48%	13%	16%	19%	40%	53%	52%

問2 携帯電話、スマートフォン、通信機能付の携帯ゲームを使って、知らない人と会話やメールなどメッセージのやり取りをしたことがありますか？（ツイッター、フェイスブック、掲示板、LINEなどのSNSを含む）

【分析】

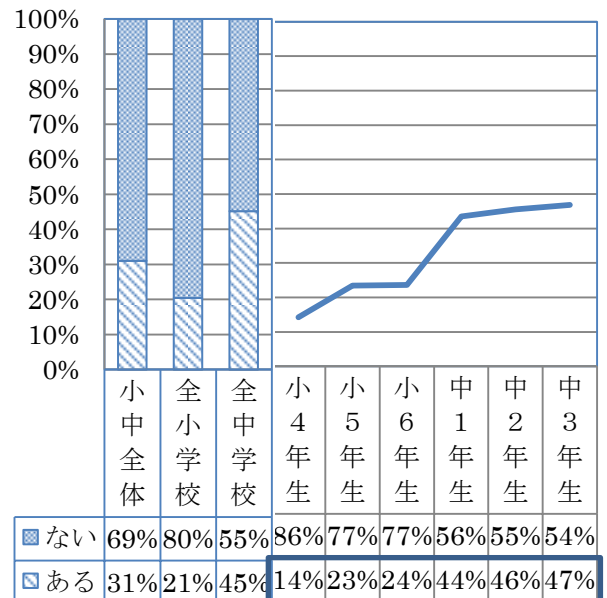
知らない人との会話やメール等のやり取りは、学年が上がるにつれ増加している。特に中学校では、全学年とも約半数の割合で知らない人と何らかの形でコミュニケーションを行っている。

なお、中学校全体の割合を昨年度と比較してみると、「ある」と回答した生徒が7%増加しており、特に中学校第1学年では、15ポイントと増加の割合が最も大きかった。

小学校では、若干ではあるが、昨年度と比較して減少している。

無料通話アプリやコミュニケーションアプリ等を利用し、知らない人とコミュニケーションをとることは、トラブルが発生しやすい原因であるということや具体的な事件・事例等を紹介しながら今後も児童・生徒に指導していき、保護者にも周知していく必要がある。

また、トラブルが深刻化した際の相談窓口についても保護者や子どもたちに周知することが重要である。



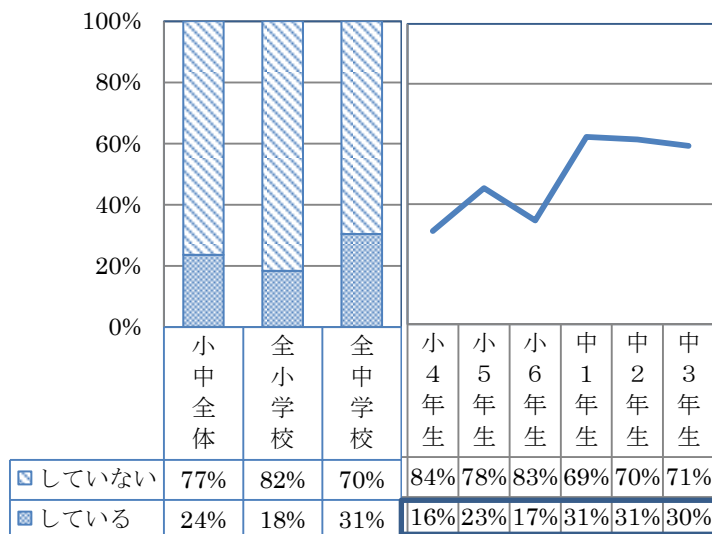
問3 携帯電話、スマートフォン、通信機能付の携帯ゲームで、自分のプロフィールやブログなどを作成したり公開したりしていますか？

【分析】

小学校では約2割、中学校では約3割が自分のプロフィールやブログを作成し、公開している。

小学校では、第4学年と第6学年で昨年度と比べ減少したものの、中学校では全学年で増加傾向にある。

情報モラル教育においてプロフィールやブログは、不適切な書き込みや個人情報の流出など大きなトラブルに繋がる可能性があることを小学校の段階から具体的な事例等を紹介し、充実した指導を展開していく必要がある。



問4 携帯電話、スマートフォン、通信機能付の携帯ゲームで、他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことはありますか？

【分析】

他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたこと

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	4%	2%	7%	2%	2%	2%	6%	8%	5%
ない	96%	98%	94%	99%	98%	98%	93%	92%	96%

のある児童・生徒は、小学校では、全ての学年で2%であった。中学校での割合は10%以下であるが、約170人の生徒が他人の悪口等を送っていることになる。

昨年度と比較してみると、小・中学校すべての学年で減少している。

日々の指導により、減少傾向にあるものの依然若干数の児童・生徒が他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしている。インターネットを使い、短い文章でコミュニケーションを取ることは、容易で便利だが、人とのコミュニケーションは、字面のみでは伝わらないことがあることや、相手の立場に立って考えること、他人の悪口等を書き込んだり、送ったりすることは、なぜいけないのか等を情報モラル教育で徹底させていく必要がある。

問5 携帯電話、スマートフォン、通信機能付の携帯ゲームで、他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことはありますか？

【分析】

他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりした

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	6%	5%	8%	4%	6%	5%	10%	8%	7%
ない	94%	96%	92%	96%	95%	95%	90%	92%	93%

ことがある児童・生徒の割合は、中学校第1学年の割合が最も高かった。小学校、中学校とも10%以下であったが、中学校にあがると割合が高くなる傾向がある。

また、問4の設問結果と比べると、送られたことのある児童・生徒の割合の方が高かった。

悪口の書き込みは、いじめにもつながり大きなトラブルになる危険性がある。書き込みをする場合は、相手の立場に立ち考えて書き込むことや感情のまま書き込むことがないように指導を徹底する必要がある。

問6 携帯電話、スマートフォン、通信機能付の携帯ゲームなどに関係したトラブル（ケンカやいじめ）の被害にあったことはありますか？

【分析】

ケンカやトラブルの被害にあったことのある児童・生徒の割合は、

	小中全体	全小学校	全中学校	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
ある	3%	2%	4%	3%	1%	2%	4%	4%	3%
ない	97%	98%	96%	97%	99%	98%	96%	96%	97%

小学校では2%、中学校では4%であった。この結果はいずれも昨年度より減少している。特に中学校第3学年は昨年度より9ポイントと最も減少した。

しかし、小学校、中学校とも100人程度、トラブルに遭遇していることから今後も引き続き学校において情報モラル教育の指導の工夫や家庭においての使い方やルール等の話し合いが必要である。

問6-2 「ある」と回答した人に聞きます。その時、誰に相談しましたか？

【分析】

被害にあった時、相談する相手は、小学校では、家の人の割合が最も高かった。小学校第4学年、第6学年においては半数近くの児童が家の人に相談している。

中学校では、友達への相談の割合が最も高かった。第1学年は家の人への相談が最も高かったが、第2学年、第3学年は、友達への相談の割合が半数を超える結果となった。

また、友達への相談の割合は、いずれの学年でも増加しており、学年が上がるにつれて相談の割合も高くなっている。

学校の先生への相談は、小学校第4学年で6%という割合だったものの、他の学年では20%近い児童・生徒が相談している。この結果は、小学校第4学年も含め、昨年度より増加している。

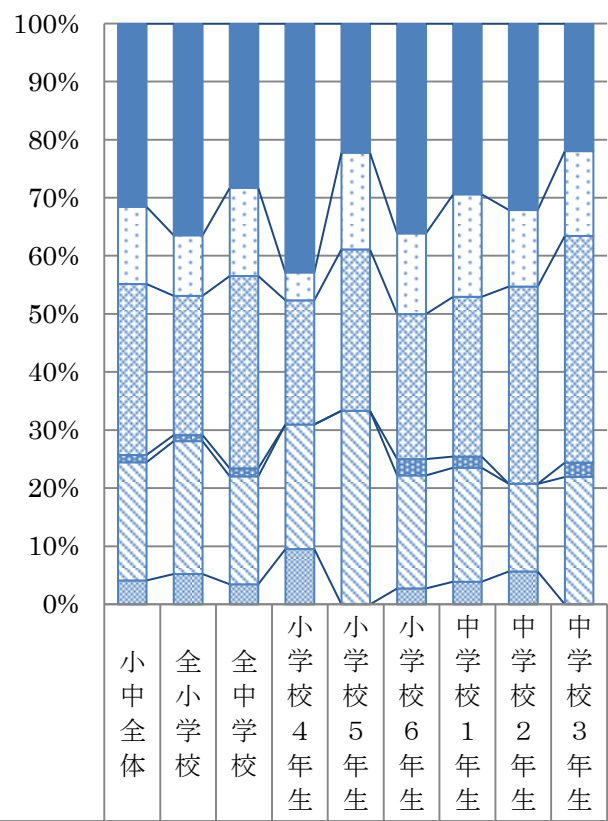
警察への相談は、小学校第6学年、中学校第1学年、第3学年で数名いた。

この結果は、昨年度よりも増加している。

これらの結果から携帯電話等で被害にあった児童・生徒は、自分の周りの大人だけでなく、友達や必要があれば警察へも相談していることが分かった。

しかし、相談していない児童・生徒は、小・中学校で約3割であり、中学校においては昨年度と比べ11ポイント増加している。トラブルが深刻化する前に相談できるように学校や家庭が相談しやすい雰囲気を作ることや校内の相談体制の確立

など、学校や地域全体で取り組むとともに、専門機関に相談するよう指導することも今後重要である。また、友達同士だけの相談は、必ずしも解決に至らず、被害が拡大したり、深刻化したりすることも懸念される。このことから相談された友達も信頼できる大人へ相談する等、適切な対処法についても併せて指導していく必要がある。



【小学校】・母が携帯電話を見て気付いた。  
・任天堂の相談窓口  
【中学校】・周囲の人が言ってくれた。  
・Yahoo知恵袋・妹

問7 あなたは、あなたの学校に「SNS学校ルール」があることを知っていますか？

【分析】

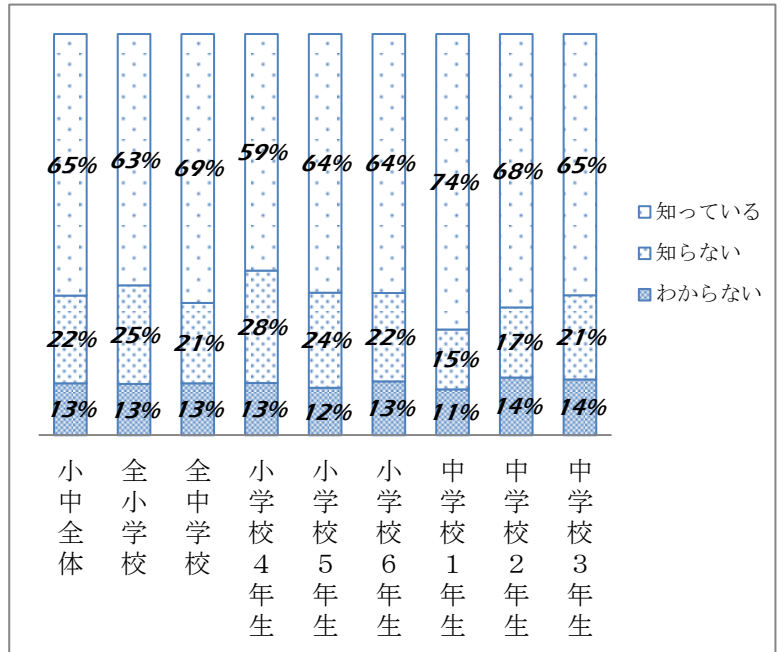
今年度新たに新設した設問である。

「知っている」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では63%、中学校では69%という結果だった。

一方、「知らない」「わからない」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では38%、中学校では34%という結果だった。

この結果から小学校・中学校ともに3割以上の児童・生徒が「SNS学校ルール」について認知していないことが分かった。

学校は、「SNS学校ルール」について改めて児童・生徒を対象にルールについての周知し、計画的、継続的な指導を行う必要がある。また、そのことに留まらず、保護者や地域に対して学校便りや保護者会等を活用して周知し、家庭と地域との連携を強化していくことが求められる。



問7-2 「知っている」と回答した人に質問します。そのルールを守っていますか？

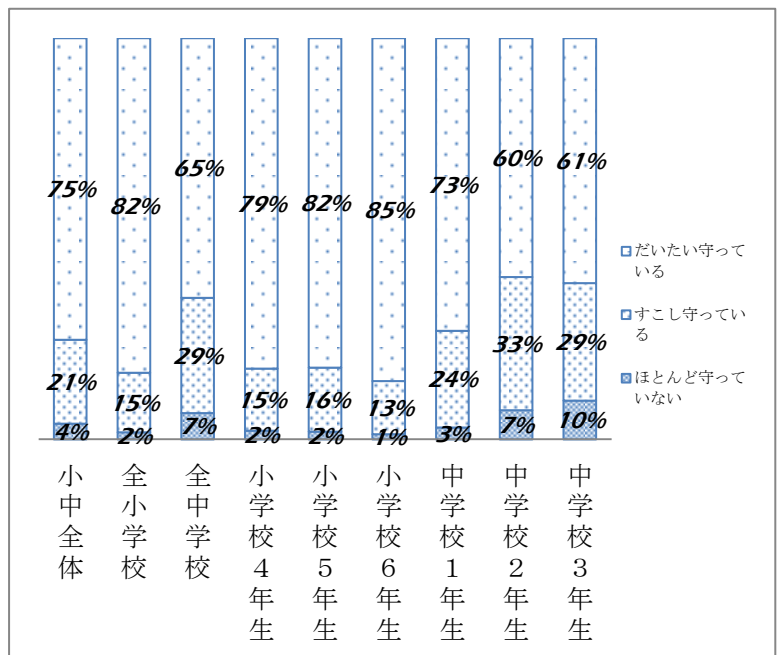
【分析】

「守っている」と回答した児童・生徒は、小学校では97%、中学校では、94%であり、小・中いずれも90%を超える結果となった。

その内訳は「だいたい守っている」と回答した児童・生徒の割合は、小学校では82%、中学校では65%であり、「少し守っている」と回答した児童・生徒の割合は小学校では15%、中学校では29%だった。

「ほとんど守っていない」児童・生徒の割合は、学年が上がるにつれて増加傾向にあり、特に中学校第3学年が最も割合が高くなっている。また、この中学校の結果は、昨年度と比較しても全学年で増加している。

これらの事から「知っている」と回答した児童・生徒のほとんどがルールを守っており、ルールの重要性を示している。しかし、その一方で学年が上がるにつれ、ルールを守っていない傾向があることから、改めて「なぜそのルールが必要なのか」ということや「何のためのルールか」などを情報モラル教育において考えさせる必要がある。





問8 携帯電話などの使い方について、家族で話し合ったり、家族から言いつけられたりした約束や決まりごと（利用する時間や場所など）は、ありますか？

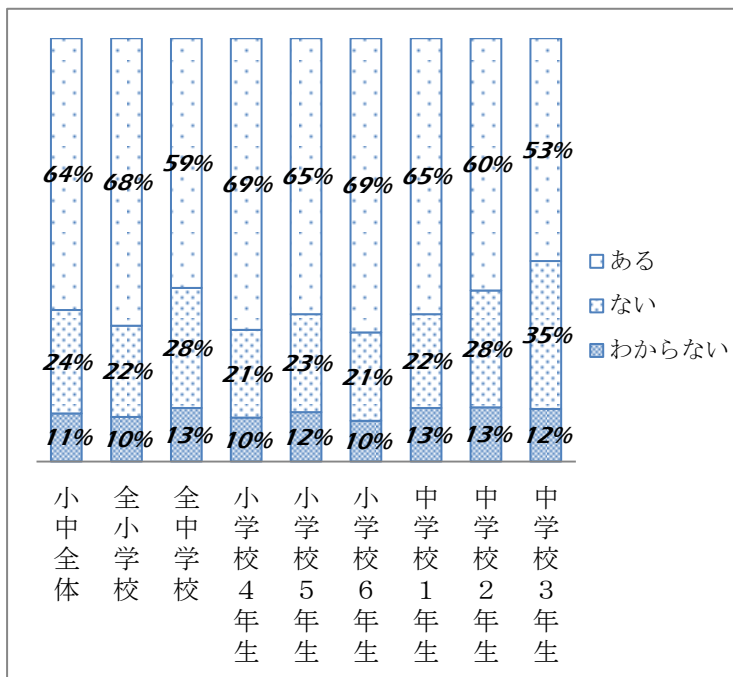
【分析】

家庭の中でルールや決まり事等があると回答した割合は、小学校では68%であり、昨年度より2ポイント下回った。

「ある」と回答した割合は、全学年6割程度であり、小学校においては減少傾向である。

「わからない」と回答している割合は、全学年で10%を超えている。これは、昨年度より増加しており、携帯電話等の使い方について家庭での話し合いができていない可能性があることを示唆した結果となっている。

携帯電話等の使い方については、家庭の中で決まり事を設け、それを守らせることが大切である。「SNS学校ルール」の内容とともに家庭への啓発が重要であり、「SNS家庭ルール」についても周知し、その取組を推進していく必要がある。



問8-2 「ある」と回答した人に質問します。その決まりを守っていますか？

【分析】

小・中学校ともに90%以上の児童・生徒が「だいたい」「少し」として守っていると回答している。

設問7-2と比較してみると、小学校では大差はないが、中学校においては「だいたい守っている」と回答している生徒は、5ポイント高かった。

また、「ほとんど守っていない」割合でも中学校では、問7-2より割合が低く、「SNS学校ルール」より家庭との約束等の方が守られていることが分かった。

このことから携帯電話等の使い方、約束を守らなかった場合の対応、守られている内容と守れないでいる内容の精選、「なぜ守れないか」「守るためにはどうしたらよいか」等、家族で話し合いを充実させ、生活指導上の問題の未然防止や早期解決に向けた「SNS家庭ルール」を作る重要性があると考えられる。

